

歴 代 か わ ら 版 解 説

1 9 9 9 年 8 月 号



夏だ！くじら！お祭り！
今年のポイント
■経営研究部会
当会では、二つのコーナーを企画しています。
一つは子供達の想像力による創造力。自分達で考え、作り出す喜びを知ってもらうために「紙がみの船」ではダンボールを用意し、何でも自由に作って遊んでもらいます。さらに、折り紙の先生方の指導により折り紙を楽しく利用したカズー（笛の一種）や鳩笛の制作もあり、楽しさいっぱいのコーナーです。
もう一つは「チャレンジ・ザ・フリースロー」で、子供から大人まで、部員制作の特製バスケゴールを使ったフリースローゲームで楽しんでいきます。得点により豪華賞品を用意しておりますのでお楽しみに。

そして四段では、AIJのP Rコーナーを設置し、我々団体のすばらしさを、多くの人達に理解して頂き、会員増強に貢献してくれると確信しております。又、今回はコーナードの服装が変わり、今迄のAIJロゴシャツが新しいロゴマークと共にAIJらしい



■会員地域開発部会
中村 建二郎
今年のくじら祭のコーナーは「わくわくお祭り広場」と称して各部会・東会で迷路・手作り工作（折り紙やダンボール等を使った工作、フリースロー、ダーツ、サイコロゲーム、及び恒例のお化け屋敷を企画しており、昨年に増して家族で楽しんでもらえることと思います。

■広報室
門井 信人
今年の広報室は、お化け屋敷をやります。
私もAIJに入って三回目のかくじら祭になり、昭島で育った私としては、くじら祭りというお化け屋敷でした。ただ、お化け屋敷に入ったのは、十人以上も昔の事で、その頃のイメージしか頭の中に残っていません。又、AIJ



ヤツになりましたので、一段と会員の皆様の若くすばらしい体型が強調され易くなると思いますので、ぜひお見逃しなく。パレードにつきましては、くじらの形の自転車に、仮装した会員が乗っての参加となる予定です。御声援の程宜しくお願いします。

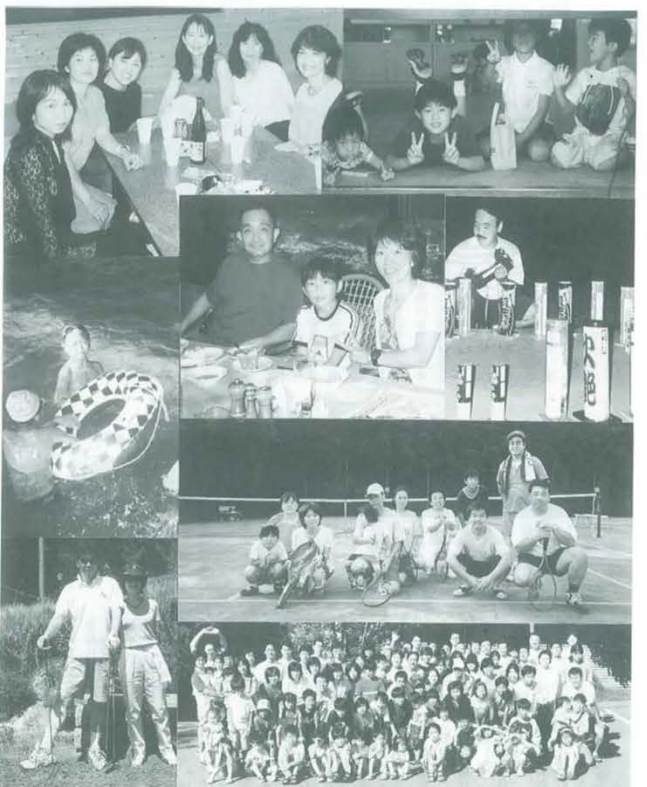


に入ってから、自分の担当の事でいっぱい、目の前のお化け屋敷を見てみるなんて余裕はありませんでした。ですから、今までのくじら祭に比べて、どうするのかがわからない分、どうするのかがいかに気持ちはありますが、先輩達の話を聞いていくうちにどんどん、こういうふうにしていきたいという、イメージが湧いてきています。



■情報研究部会
パレード参加
部長の趣味により、今年はてつくりです。環境問題に対応するために、自動車を台車にするのは止めました。
副部長のアイデア炸裂の設計、小山さん、種村さんの卓越の溶接技術、小林さんの野口さん、早野さん、宮腰さん、の職人的仕上げ、南山さんの子煩悩、橋本さんの仕事熱心、部会の集大成の傑作をお楽しみに。
なお、担当副理事長の勧めにより、仮装はインパクト抜群です。

七月例会家族会報告
快晴の日差しの中、炎熱の東京を離れ、南アルプスを望むリゾートで、恒例の家族会が開催されました。ゆとりのあるスケジュールの中、ギミツクリ、フールゴルフ、テニスと十分に楽しんでいただけようです。
また、小山会員の力作イラストは、子供だけでなく大人も真剣に挑戦していました。そして今回の目玉、大花火大会では、ちよっと大目目の打ち上げ花火と、大量の手持ち花火とで十分堪能していただけたと思います。夜九時からの大人の懇談会は賑やかに十二時まで行われ、会場がしまった後、さらにコテージで夜明け近くまで続いたとのことでした。



かわら版解説「くじら祭」について

広報室 室員 清水 洋平

今回は、一九九九年八月号のくじら祭についての記事を取り上げます。今から二十二年前のくじら祭、会場内の催しは「わくわく広場」と称し、迷路・折り紙や段ボールによる手作り工作・フリースロー・サイコロゲーム・お化け屋敷を企画されています。広場内の催し物は近年、会員数が少ないため、手のかからず（それでも手はかかりますが）収益性の高い物が好まれる傾向にあります。当時の先輩方は、ほぼ手作りのコーナーが多いです。さすがです。又、パレード参加の記事はありますが、パレード運営についての記事がありません。当時はパレード運営なかったのでしょうか。今度先輩にお聞きしてみたいと思いました。

ここ二年間、コロナの影響でくじら祭は中止となりましたが、来年こそは開催したいです。コロナ後のくじら祭となりますので何かと制約は出てくるかもしれませんが、そこは現役会員の知恵を出し合い、その時に出来る最善を尽くせればと思います。

かわら版解説「七月例会家族会報告」

広報室 編集長 服部 尋

当月、私の所属している広報室の担当例会が『家族会』であったので、こちらの記事を選択いたしました。コロナ禍である現在と比べ、会員同士の親睦が強く伝わってくる写真画像や、子供たち同士の楽しそうな風景が印象的でした。

一九九九年と言えば、当時不況真ただ中の状況で、現在と同等の経済状況であったかと推測されます。そのような中でも、会員同士がその場を楽しみ、主催者側も精一杯の楽しさを提供している情景が伝わってきます。やはり、現在の状況がいかに異常なことかを実感するには十分な記事であると感じました。

そして、家族を含めた会員の親睦がとても明るい雰囲気をもたらしてくれることの重要性も伝えてくれています。

現在のコロナ禍を乗り越え、このような家族会が実現できることを切に願います。